

—関連施設だより—

地域に密着した病院を目指して

齋藤 整

社会医療法人社団正志会荒木記念東京リバーサイド病院

Aim for the Community-based Hospital

Hitoshi Saito

Araki Memorial Tokyo River Side Hospital

当院は2009年5月1日に東京都と荒川区からの地域住民の産科・小児科・救急医療に対する要望により誘致され医療法人社団正志会東京リバーサイド病院として、“最新の知識と技術に基づき安心・確実な医療を提供することによって地域医療に貢献する”を基本概念に開院しました。

開院当初はベッド数133床（産婦人科病棟28床、回復期病棟50床、一般急性期病棟55床）でしたが、2016年6月に当グループ病院の一つである葛飾リハビリテーション病院の開設に当たり、回復期リハビリ部門および病床の一部を移転し現在は109床（産科病棟24床、レディース病棟31床、一般病床40床、地域包括ケア病床14床）で診療を行っています。また、名称も2011年に社会医療法人に、2016年10月に日本医大元学長で当院顧問の荒木勤先生のお名前をお借りし荒木記念東京リバーサイド病院に変更しました。標榜科目は産科、婦人科、小児科、内科、外科、乳腺外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科となっています。

当院の特色は産科医療ですが地域の中核病院を目標に“お産をするなら東京リバーサイド病院で”をスローガンにセミオープンシステム（通常の検診は近医で行い、お産は当院で行う）を導入し、現在は19施設と提携しています。無痛分娩も積極的に行い（麻酔科2人常駐）お産数も年々増加し最近では1,000件/年以上で推移していました。2021年は986件（うち無痛分娩260件）と都内23区内117施設中15番目でした。さらに2017年から基本理念にある“母と子の優しい病院”を目標に荒川区や近隣区と提携し産後ケアも行い、2021年は301組の母子が当施設を利用されました。

婦人科は日本医大のご指導の下、腹腔鏡手術の指導施設として診療を行っており、2023年6月2、3日に伊藤国際学術研究センターで開催される第35回日本小切開、鏡視外科学会を当院産婦人科が主催をさせて頂くことになりました。



一般病棟は内科，整形外科医が担当しています。救急病院としての救急患者の受け入れやハビリ部門（理学療法士14人，作業療法士4人，言語療法士2人）の機能を活かして近隣病院からリハビリ目的の患者を多数紹介頂いています。日本医大の各科からもご紹介頂いていますが特に脳神経内科からは急性期や全身管理の必要な脳疾患患者を多数ご紹介頂いております。

また，東京リバーサイド訪問看護ステーションペンギン，介護支援センターペンギンを併設し地域住民の健康管理を行うとともに地域ケア病床を利用し在宅介護のお手伝いをさせて頂いています。

当院のグループ病院（われわれはペンギングループと称しています）が隣接区の北区，葛飾区に4病院があり（2023年には荒川区にあった元東京女子医大東医療センターの跡地に令和あらかわ病院が開院予定），特に平成立石病院や花と森の東京病院とはお互いの電子カルテをそれぞれの病院に設置しており様々な専門医に診断を仰ぐことができ患者の状態に幅広く対応できる体制となっています。

日本医大との関係ですが外来診療に関しては，内科（消化器内科，脳神経内科，循環器内科，呼吸器内科，血液内科，内分泌代謝内科），小児科，皮膚科，泌尿器科，産婦人科，救命救急センター科の各医局から，当直に関しては消化器内科，血液内科から派遣して頂き専門的な医療を提供して頂き，救急医療に関しても当院で対応困難な症例を迅速に受けて頂いております。診療面以外では，大学医学部の早期臨床体験（Early Clinical Exposure）や多職種間連携教育（Inter-professional Education）にも法人全体として全面的に協力させて頂いています。当院にとって日本医大付属病院とはなくてはならない密接な関係を築かせて頂いております。

14年目と歴史の浅い病院ですが患者本位の安心，安全な医療を提供し，“赤ちゃんから高齢者まで”と幅広く対応することによって地域医療に貢献していく所存です。

今後ご指導ご鞭撻の程宜しく申し上げます。

（受付：2022年8月22日）